

世界の2025年のサクランボ供給量は減少

[FreshPlaza 2025年6月17日](#)

サクランボ市場は、ハイテク温室の運営を変えるような大きな変化に直面している。複数の報告は、低温被害と貿易の不確実性によって引き起こされた困難な状況が、2025年のサクランボ部門の動向に影響を与えていることを示している。

ヨーロッパでは、天候関連の混乱により、収穫量の損失が30%から80%に上っている。エクスパナ社(農産物情報会社)のある関係者は、「こうしたヨーロッパの不作により、世界的なサクランボの出回り量が逼迫すると見られ、不足分を埋めるために北米の生産者に圧力がかかるだろう」と述べている。

米国の業界関係者らは、サクランボの見通しは注意を要すると説明している。(酸果オウトウの)主産地であるミシガン州では、2025年の収穫量は9,500万ポンドから1億1千万ポンドと予測されており、2024年の1億8千万ポンド弱を下回っている。ある市場参加者はエクスパナ社に対し、「世界と国内の供給が両方とも縮小しているため、価格への上昇圧力は避けられない」と述べている。(1億ポンド=約4万5千トン)

甘果オウトウについては、ヨーロッパとカリフォルニア州の生産者らは大幅な減収を報告しており、2025年のカリフォルニア州の収穫量は昨年のわずか25~50%となっている。これとは対照的に、ワシントン州では今シーズン、ダークチェリーの収穫量が平均以上になると予想されており、供給の問題を緩和する可能性がある。ミシガン州では、甘果オウトウの収量にばらつきがあり、特定の地域では平均的な予想を満たす一方で、他の地域では最大50%の減収が見られる可能性がある。

出典: Mintec/Expana

ニュージーランド ゼスプリはキウイ生産者の好調な収益を予測

[FreshPlaza 2025年6月17日](#)

ゼスプリは、2025/26年度シーズンについての6月時点での参考予測を発表した。好調なスタートを切ったことを反映して3月の当初予測よりも予測値の幅が狭まった。この見通しでは、グリーン、スイートグリーン、有機グリーン、有機サンゴールドの各キウイフルーツの1ヘクタール当たりの平均収益が引き続き増加し、前シーズンの記録的な水準を上回ることが示唆されている。CEOのジェイソン・テ・ブレイク氏によると、これらの前向きな予想は、収量の増加、果実のサイズ分布の改善(特にグリーンとルビーレッドの両品種)、さらにサンゴールドとルビーレッドの新植園地からの生産量の追加によるものである。

ニュージーランドは今シーズン、2億箱以上のキウイフルーツを生産すると予想されている。販売は順調に始まり、欧州や北米での需要が堅調であると報じられている。しかし、同社は、アジア市場で続いている課題、特に日本のインフレ圧力が価格と需要に影響を与える可能性があることを認識している。

ゼスプリは現在までに、1億1千万箱以上のキウイフルーツを出荷しており、これは今シーズンの予想総出荷量の半分以上に当たる。ルビーレッドの販売は終了し、同社の運営チームは、販売の勢いを維持し、市場全体で価格を維持することに注力している。

ゼスプリの2025/26年度の税引き後純利益(ライセンス収入を含む)は、2億4,800万~2億5,800万NZドル(1億5,100万~1億5,700万米ドル)と予測されている(前年度は1億5,520万NZドル(9,500万米ドル))。

同CEOはまた、生産者による株式保有の増加など、業界全体の戦略的な取組みの進展も指摘した。最近の株式保有の調整の取組みにより、生産者のゼスプリ株保有率が48%から60%以上に増加すると予想されている。これは、91%が国外での生産拡大の取組みを支持した2024年の生産者投票に続くものである。

業界は現在、2035年に向けた戦略を策定しており、商業的利益の整合と長期的な価値創造の計画に重点を置いている。ゼスプリによると、特にニュージーランド産キウイフルーツに対する需要が世界市場で依然として強い中、生産者と株主の利害を一致させることが将来の取組みの中心となる。